

# 経済・金融 フラッシュ

## 企業物価指数(2013年6月) ～前年比で19ヶ月ぶりに1%を超える上昇率に

経済研究部 研究員 押久保 直也

TEL:03-3512-1838 E-mail: oshikubo@nli-research.co.jp

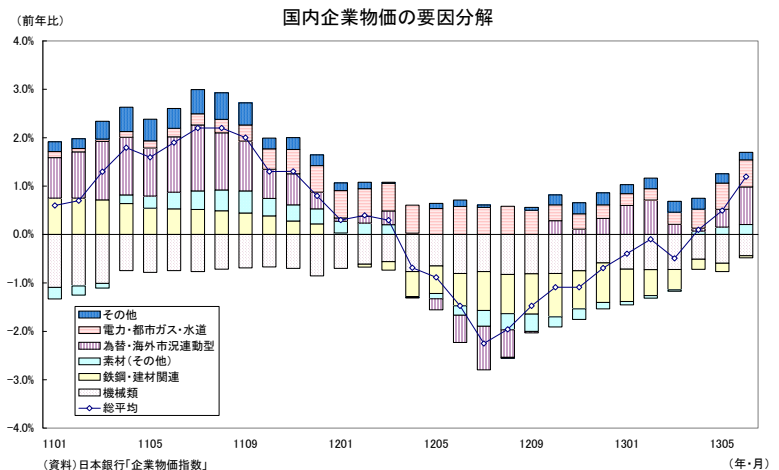
### 1. 企業物価指数は前年比で3ヶ月連続の上昇

7月10日に日本銀行から発表された企業物価指数によると、2013年6月の国内企業物価は前年比1.2%と3ヶ月連続で上昇し、5月の同0.5%から上昇幅が更に拡大した。前年比では、2011年11月(1.3%)以来の1%を超える高い上昇率となった。また、対前月比では0.1%と2ヶ月ぶりに上昇した。

6月の国内企業物価(前年比)を寄与度別に見てみると<sup>1</sup>、機械類が前年比▲0.4%(5月:前年比▲0.6%)、鉄鋼・建材関連が前年比0.0%(5月:前年比▲0.2%)、素材(その他)が前年比0.2%(5月:前年比0.2%)、為替・海外市況連動型が前年比0.8%(5月:前年比0.4%)、電力・都市ガス・水道が前年比0.6%(5月:前年比0.5%)、その他が前年比0.2%(5月:前年比0.2%)となっている。

国内企業物価(前年比)の大幅な上昇幅拡大要因としては、機械類、鉄鋼・建材関連の前年比での寄与度に下げ止まりの兆しがみられ、為替・海外市況連動型、電力・都市ガス・水道の前年比での寄与度が5月よりも更に上昇したことがある。円安基調が続く中、昨年6月は一時77円台に突入するなど歴史的な円高水準だったこともあり、為替・海外市況連動型が前年比での上昇に最も寄与した。

今後は①海外経済回復に伴う国際商品市況の上昇、②国内景気回復持続に伴う需給バランスの改善、③貿易赤字の恒常化、米国のQE3縮小観測に伴う日米金利差の拡大を主因とした円安基調、から国内企業物価(前年比)は上昇基調が続くだろう。



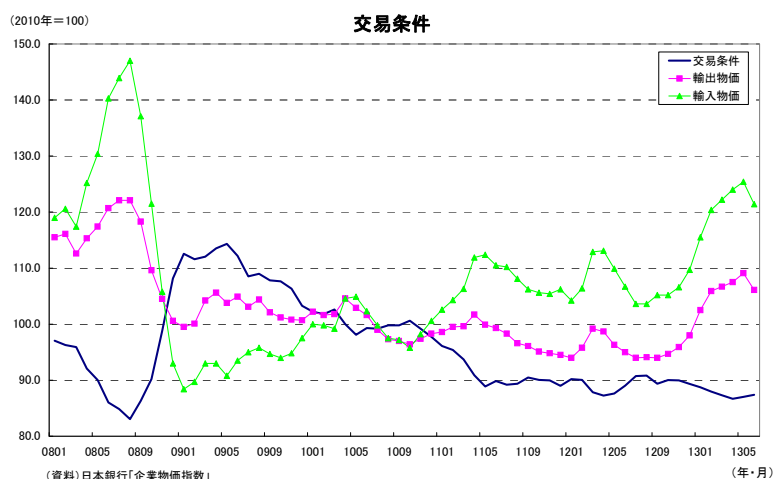
<sup>1</sup> 機械類：はん用機器、生産用機器、業務用機器、電子部品・デバイス、電気機器、情報通信機器、輸送用機器  
鉄鋼・建材関連：鉄鋼、金属製品、窯業・土石製品、製材・木製品、スクラップ類  
素材(その他)：化学製品、プラスチック製品、繊維製品、パルプ・紙・同製品  
為替・海外市況連動型：石油・石炭製品、非鉄金属  
その他：食料品・飲料・たばこ・飼料、その他工業製品、農林水産物、鉱産物

## 2. 交易条件は2ヶ月連続で改善

6月の輸出物価は前年比11.7%、前月比▲2.7%となり、輸入物価は前年比13.8%、前月比▲3.2%となった。一方、契約通貨ベースでは、輸出物価は前年比▲2.2%、前月比▲0.4%となり、輸入物価は前年比▲2.6%、前月比▲0.4%となった。輸出物価、輸入物価ともに契約通貨ベースでは前年比で下落しているものの、円安基調が続いているため、円ベースでは前年比で大幅な上昇となっている。

6月の交易条件（輸出物価／輸入物価×100）は87.4（5月：87.0）となり、小幅ながらも2ヶ月連続で改善した。

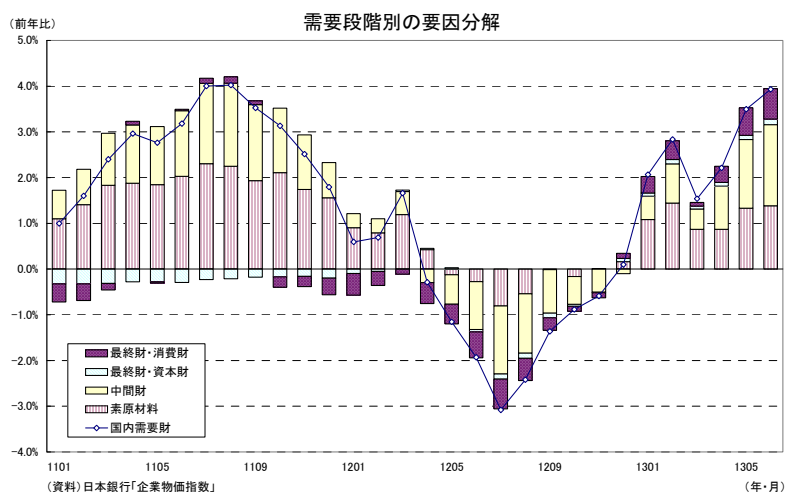
6月は一時的に円高（101円台→97円台）に振れたため、輸入物価は11ヶ月ぶりに前月比で下落したものの、7月に入ってからは再び100円台まで円安が進んでおり、輸入物価が上昇することで、交易条件は再び悪化する可能性が高い。



## 3. 消費財は前年比で7ヶ月連続の上昇

2013年6月の国内需要財の物価は前年比3.9%（5月：前年比3.5%）となった。その内訳を需要段階別・用途別にみると、素原材料が前年比11.9%（5月：前年比11.1%）、中間財が前年比3.5%（5月：前年比2.9%）、最終財・資本財が前年比1.2%（5月：前年比0.9%）、最終財・消費財が前年比2.5%（5月：前年比2.2%）となった。いずれの財についても、前月より上昇幅が拡大した。企業間の取引では、円安基調が続くに伴い、素原材料、中間財のみならず最終財にまで物価上昇が徐々に波及している。

2013年5月の消費者物価は7ヶ月ぶりにマイナス圏を脱するなど上昇してきており、川上から川下への価格転嫁が徐々に進むことで、消費者物価は6月以降プラスとなることが予想される。



（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。